

## 全校朝会 『夢中になれるもの』

26日の夜は、皆既月食の天体ショーを楽しめるチャンスでしたが、あいにくの天候で、残念ながら桐生市からは肉眼で観測することができませんでした。

皆既月食は、太陽と地球と月が一直線に並び、地球の影が月をすっぽり隠してしまうことで観られる現象です。普通なら満月、半月、三日月、新月など1か月かけて観られる月の変化を、ほんの3時間ほどで観ることができます。その内の20分間近く地球の影がすっぽり月を隠す時間が、皆既月



食です。今回の皆既月食は、月が地球に一番近づくスーパームーンの時と重なるため、月がとても大きく見えて、更に赤く見える現象も起きました。次のスーパームーンとセットの皆既月食は、2033年10月に観られます。12年後は、夜空に雲がないといいですね。

さて、北小学校にはN先生やY先生のように、理科のプロフェッショナルの先生がいますが、天体のことが大好きで、今回の皆既月食をだれよりも楽しみにしていた人がいます。それは、用務員のMさんです。Mさんは、おとといの皆既月食を東の空が開けていて観やすい渡良瀬遊水池で観測しようと計画を立てていました。でも、残念ながら天候が悪くて行けませんでした。

Mさんが天体に興味をもったきっかけは、大学生になって伊豆半島を縦断する旅にでた時にあります。旅の途中で夜空に広がる満天の星を観て、天体観測の虜になったといいます。それからは、長野県のハヶ岳のそばにある八千穂高原まで何度も出かけていき、空気の澄んだ空に近い高原から、夢中になってたくさんの天体ショーや星の観測をしてきたそうです。

天体観測は、星の明るさや色、地球からの距離や星の動きなど科学的な見方で観測をすることができますね。月食や日食、流星群の天体ショーを存分に満喫することもできます。また、星座の物語やギリシャ神話とのかかわりなどを学び、ロマンチックに天体を楽しむこともできます。ゆったりと夜空を見上げて星を見つめ、物思いにふけったり、心を開放させながらリラックスしたりすることもできます。

大切なのは、天体観測に限らず、夢中になれるもの、熱中できるものをもつことだと思います。夢中になって物事に取り組んでいる姿ってとてもいいですし、顔も輝いて見えます。また、豊かな知識を得たことが自信に繋がり、学びを広げ、深めていこうとする意欲や探究心を高めて、生きる力の原動力になるのでしょうかね。皆さんもMさんのように、日々の生活を送る中で、夢中になれるもの、熱中できるものを見つけてみてください。



### 大会・コンクールなど 受賞 おめでとうございます

歯科検診 歯と口が大変きれい表彰 O・E (6年1組)

M・Y (6年1組)

足利まつり少年柔道大会 【第3位】 Y・M (1年1組)

\*5月28日の全校朝会で紹介しました。